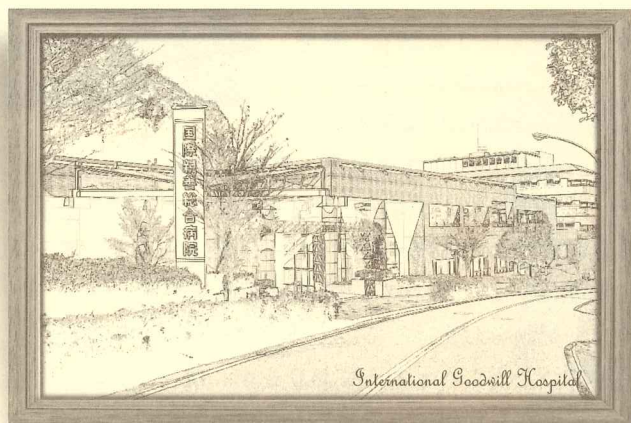


# 病院だより



看護相談室

Yumiko Shimura

志村由美子

増えている前立腺がん ~疫学、検査、治療について~

Jun Kasuga

春日 純

血液浄化・透析センター 開設2年目を迎えて

Rieko Matsumoto

松本理詠子

## 国際親善総合病院

URL <http://shinzen.jp>

〒245-0006 横浜市泉区西が岡 1-28-1  
TEL 045 (813) 0221 (代表)  
FAX 045 (813) 7419 (庶務課)

国際親善総合病院看護部  
モバイルサイト



## 看護相談室

看護相談室が7月から1階外来にオープンします。看護相談室とは、その分野において専門的な知識・技術を持った看護師が、患者さんまたはご家族の方からの相談・指導・ケアを行う部門で、数年前から多くの病院で開設されています。

当院にも専門的な知識を持った認定看護師

が5領域（緩和ケア、がん性疼痛看護、皮膚・排泄ケア、救急看護、集中ケア）7名います。当院におかかりの患者さんが安心して治療を受けて頂けるように、認定看護師が医師と連携を取りながら、患者さんをサポートし、アドバイスや情報提供を行っていきたいと考え開設致しました。

様々な分野での相談をお受けしていく予定ですが、今年度はがんに対する相談から始めさせていただこうと考えております。現在、男性・女性ともおよそ2人に1人が一生のうちにがんと診断されるほど、身近な病気になりました。また通院で抗がん剤治療を行っている患者さんも増え、自宅での療養も可能になってきています。以前より治療の副作用・在宅生活での悩み等を相談したいという患者さんの声もあり、プライバシーが保てる個室で、専門の看護師が対応出来る体制になりました。患者さん・ご家族が自分の病気や治療について理解し、病気と向き合っていただけるように、また悩みや疑問などを一緒に考え、より良い生活を過せるようにサポートさせていただきたいと思っております。



ゆっくりとご相談させていただくため、完全予約制とさせていただきますので、ご希望の方は担当医、病棟・外来看護師へお申し出ください。

看護相談室課長 志村由美子

## 増えている前立腺がん

～疫学、検査、治療について～

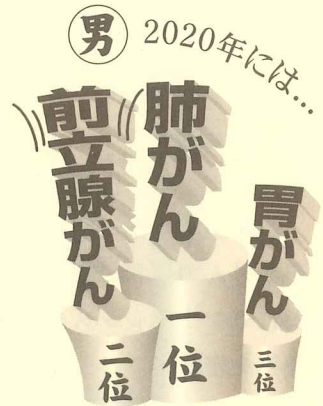
前立腺がんは50歳以降の男性にみられるがんで、欧米では大変多い疾患として知られています。アメリカ合衆国では男性のがんで最も多く、約30%を占めています。日本でも近年増加傾向にあり、2020年には男性のがんでは肺がんに次いで罹患数第2位になると予測されています。

ではなぜ日本において前立腺がんが増えているのでしょうか。その背景には社会の高齢化、食生活の欧米化、診断法の進歩といった3つの要因が考えられます。前立腺がんは50歳以降高齢になるに従って罹患率が増加します。男性の平均寿命が延びるに従い、患者さんが増えています。また、脂肪の多い食事や緑黄色野菜の不足といった食生活が、前立腺がんの罹患率上昇の背景にあると推定されています。さらに、1980年代に発見された前立腺の腫瘍マーカー「PSA」の検査が普及したことで、従来は見つからなかった早期がんの発見率が大変向上しています。

前立腺がんの多くは病気の進行が遅く、何年もかかってゆっくり進行するのが特徴です。初期のうちは特有の症状はみられません。しかし、がんの増大に伴い排尿困難感や、残尿感といった症状が出やすくなります。また、尿や精液に血が混じることもあります。さらに進行すると、骨に転移して腰痛や四肢痛が現れることがあります。

治療は、早期に見つかった場合は手術や放射線治療により根治が可能です。また内分泌療法と呼ばれる治療も病期を問わず広く用いられています。病気は早期発見早期治療が大切ですが、前立腺がんは初期のうちは症状がないことが多いです。出来れば検診を受け、早期発見していただきたいと思えます。

泌尿器科医長 春日 純



このテーマは

平成23年7月8日(金) 15:00から約1時間

の健康懇話会にて講演予定です。

(入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。)

# 血液浄化・透析センター 開設2年目を迎えて

平成22年5月に、血液浄化・透析センターを開設し1年が経過しました。

当センターは、腎臓・高血圧内科部長である酒井政司センター長を中心に緊急入院や手術・検査目的など入院状況に合わせ、血液透析療法のみならず各種の吸着療法や血漿交換療法も行い最新の治療を迅速に行っています。

開設当初は2人の患者さんからのスタートでしたが、2年目を迎える今は、週3日(月・水・金)午前・午後2クールで、入院・通院の患者さんを10～13人受け入れています。

スタッフは、医師・看護師・臨床工学士がひとり一人の患者さんの病状に合わせ定期的にカンファレンスを行い、連携を密にすることで、患者さんが安心して透析治療を受けて頂けるよう業務に取り組んでいます。



透析患者さんにとって透析治療は、日常生活の一部として切り離せない治療です。しかし、時には「本当にこの治療を続けていく意味があるの?」と、くじけそうになる患者さんもいらっしゃいます。その際は医師・看護師とともに協力し、治療継続が出来るように、ご家族も含めて精神的なフォローにも努めています。生活調整や食事指導は、透析患者さんにはとても重要なことです。血液検査結果や飲水制限などをきめ細かく確認し、患者さんに合ったアドバイスができるように心がけています。

今後も患者さんに、信頼される透析治療を受けて頂けるように努力していきたいと考えています。

血液浄化・透析センター看護課長 松本 理詠子